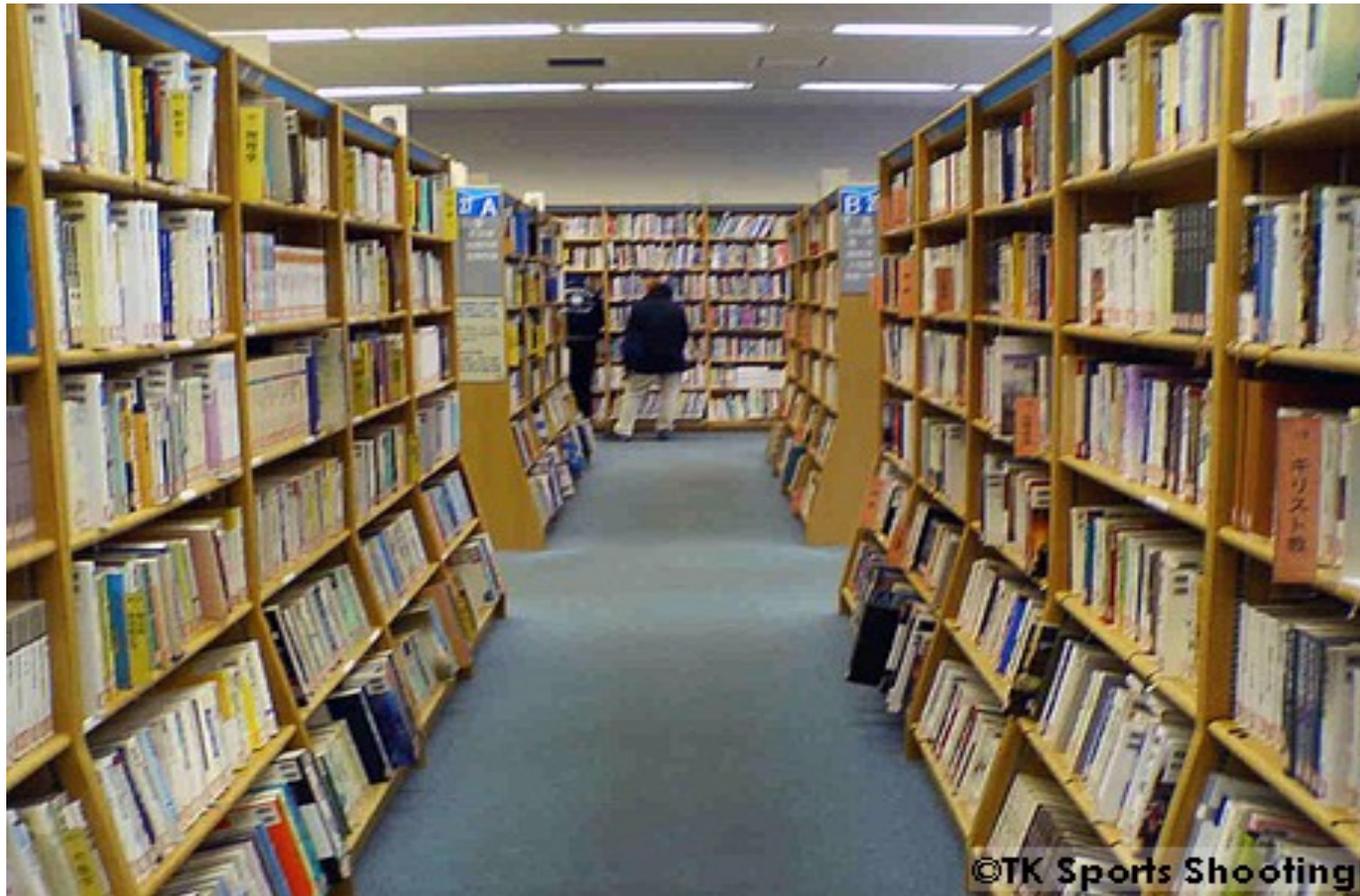


図書館ノカタチ

～公共図書館の現状と今後の在り方～ 富山大学 中村和之ゼミ



©TK Sports Shooting

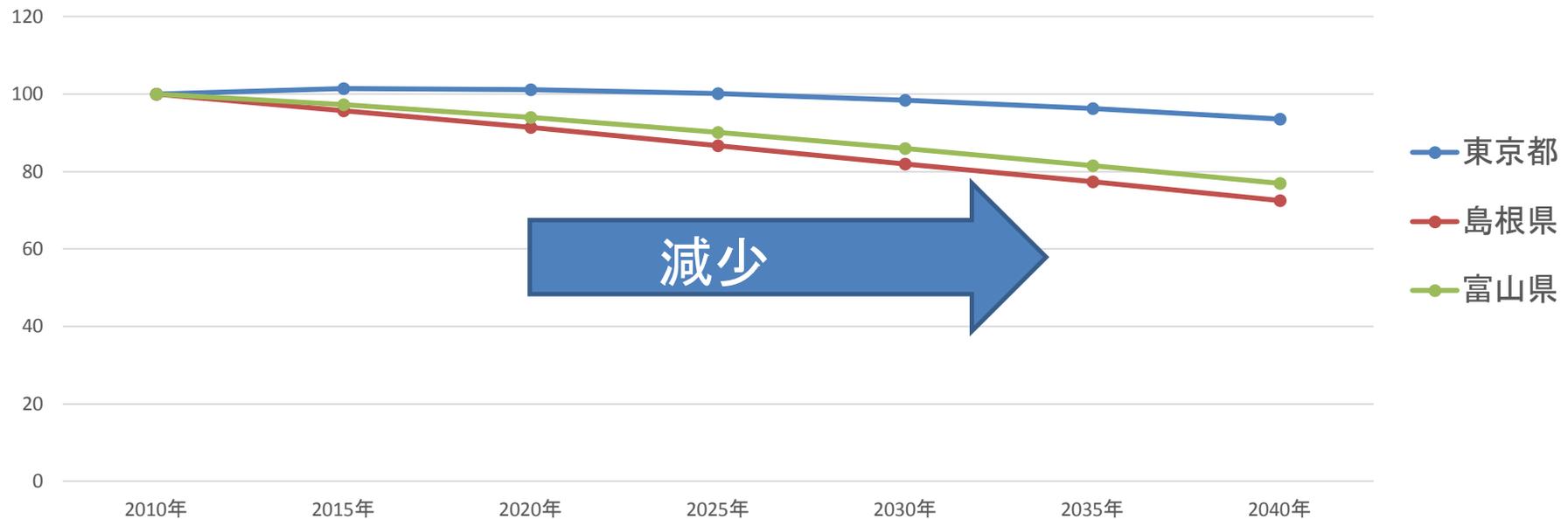
発表の構成

- 1 研究の背景
- 2 研究の目的
- 3 公共図書館の概要
- 4 研究の方法
- 5 効率性の分析
- 6 提言
- 7 集約化の可能性
- 8 まとめ

1 研究の背景①

地方で深刻化する人口減少

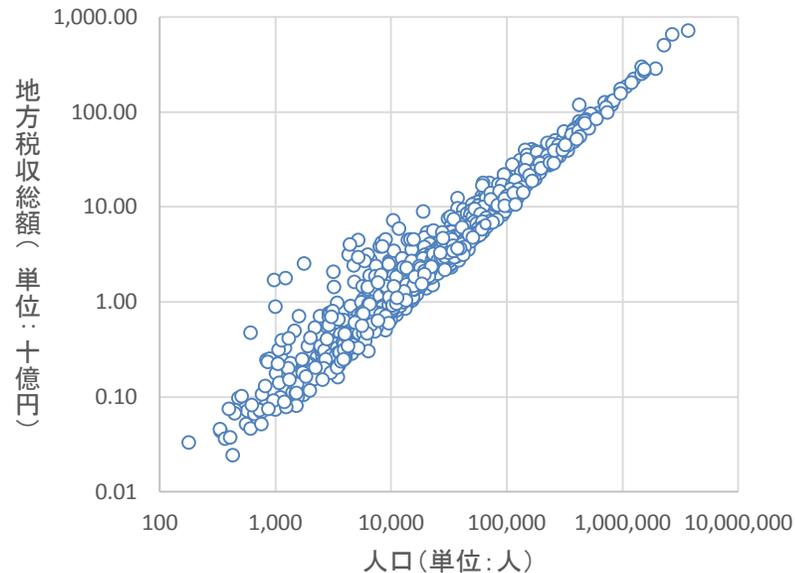
<2040年までの推計人口の変化>



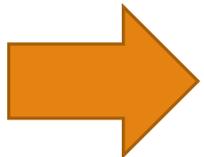
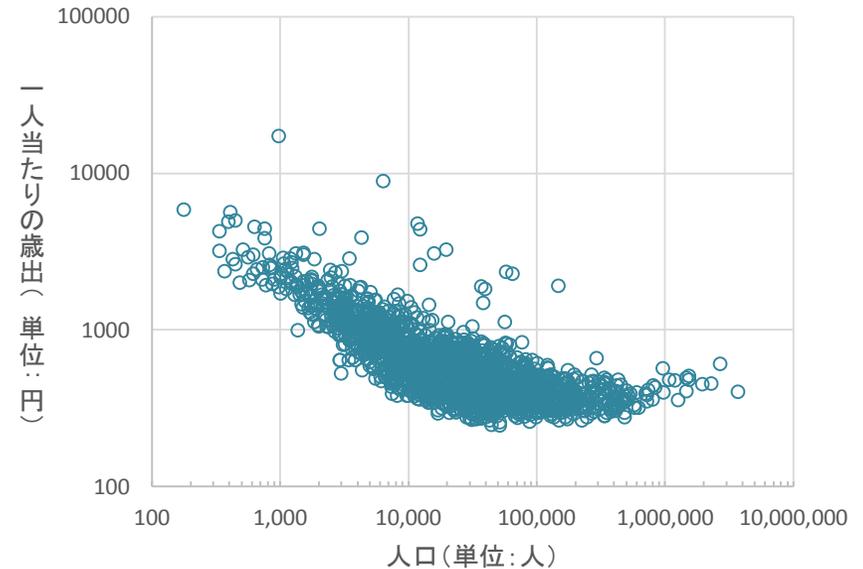
研究における背景②

人口減少が地方の財政に与える影響

＜地方税収と人口の関係＞



＜一人当たりの歳出と人口の関係＞



- 税収の減少
- 人口1人当たりで見た公共サービス供給の費用が上昇

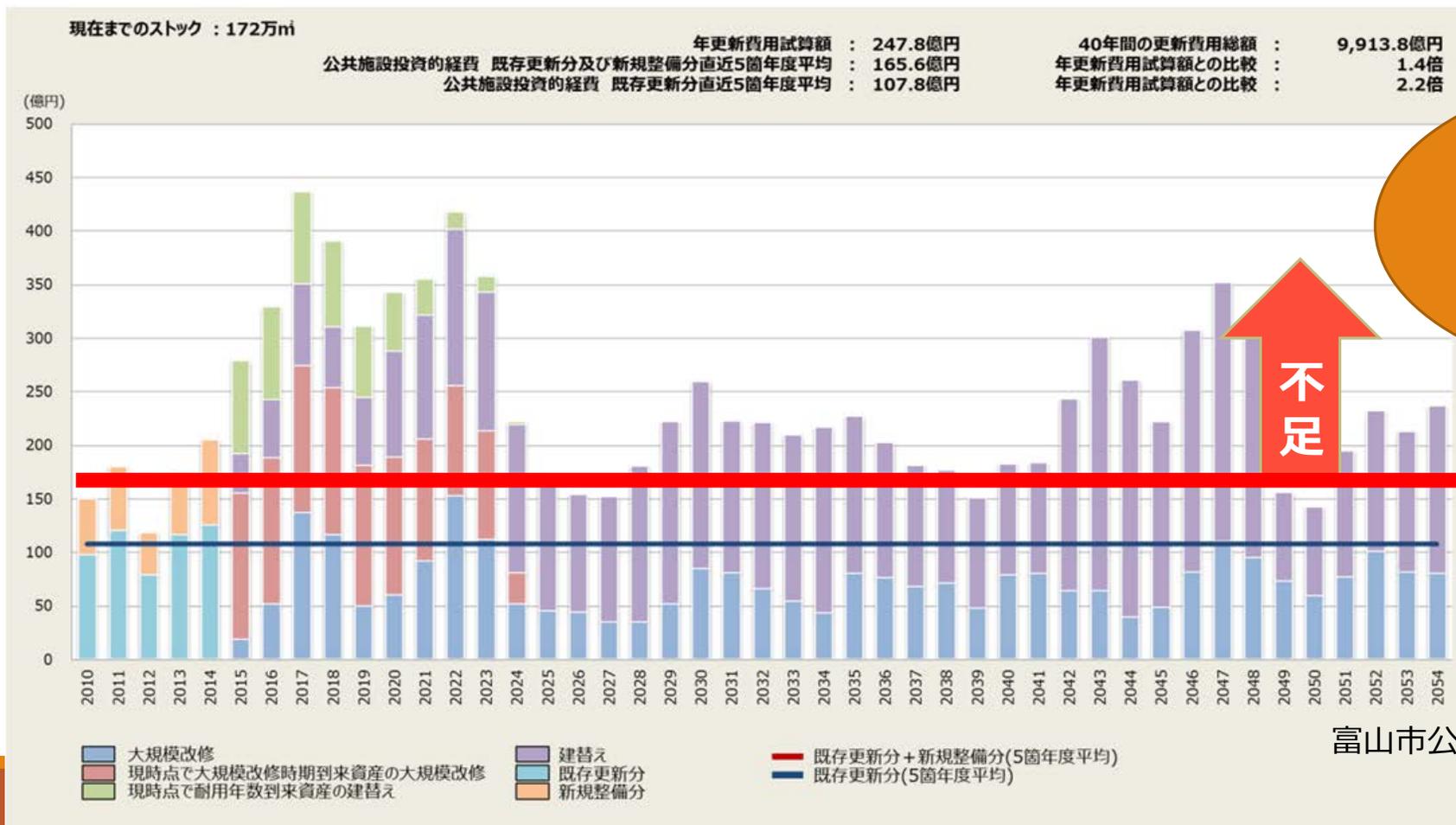
研究における背景③

公共施設の維持管理が課題

- 公共施設は人口に合わせて減らすことが困難
- 多くの公共施設が更新、建て替えの時期を迎えつつある
- 市町村合併を経た自治体では、公共施設の数そのものが過剰である可能性

研究における背景④

公共施設の更新費用推計：富山県富山市の事例



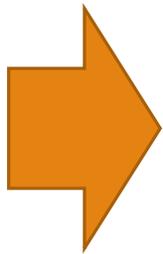
地方財政の圧迫

先行研究～公共施設の集約化～

・内藤(2015)「人口減少時代の公共施設改革～まちづくりの視点によるPRE/FM戦略～」

→集約化の核となる複合公共施設のメリット

- ①コストの合理化
- ②相乗効果の発現
- ③公共施設への公共交通の合理化と利便性向上



ただし、個別の施設ごとには分析していない
施設の特性を踏まえた研究が重要
そこで、公共図書館の集約化について詳しく考える

2 研究の目的

将来の地方財政の圧迫に対処するために、
公共施設の予算を削減すること



公共図書館に注目！！

図書館を研究する重要性

- 公共施設の中でも教育・医療機関と比べて予算の削減が容易
- 社会環境が変わったため、てこ入れしたら大きな効果を期待できる

3 公共図書館の概要

公共図書館とは…図書館法にのっとり、自治体が公的に設置する図書館で、市民のために無料公開されるもの

公共図書館の役割

<提供者側>

- ・教養と文化の発展に寄与すること
- ・資料の収集と提供

図書館法より

<利用者側>

- ・教養を育むこと
- ・その地域の生活の質の向上
- ・すべての人が平等に資料提供の機会を無料で得ること

研究の視点

- 実際、現在の図書館の実態はどのようなものであるか？
- 職員や資料費など運営にかかる費用はどれくらいで、それに伴った効用がどれくらい得られているのか？
- 今後どのような方針で運営していくべきなのか？

4 研究の方法

図書館の要素を生産資源と提供されているサービスに分け、客観的に図書館の果たしている働きを考える



グラフを作り、効率良く運営するために必要なことを明らかにする



ある市を例に挙げ、導入してみたらどうなるのかを検証する

以後富山県内の市町村に注目して研究する

(富山県内の市町村のうち、舟橋村は他の市町村と比較したときに圧倒的に人口が少なく、データが大きくなるため、以後のデータ処理では省いて考えることとする)

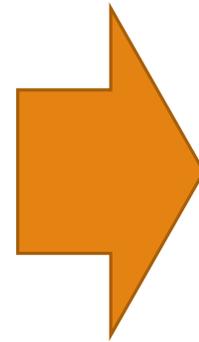
図書館の要素

<input>

- 所蔵数
- 職員数
- 図書館費

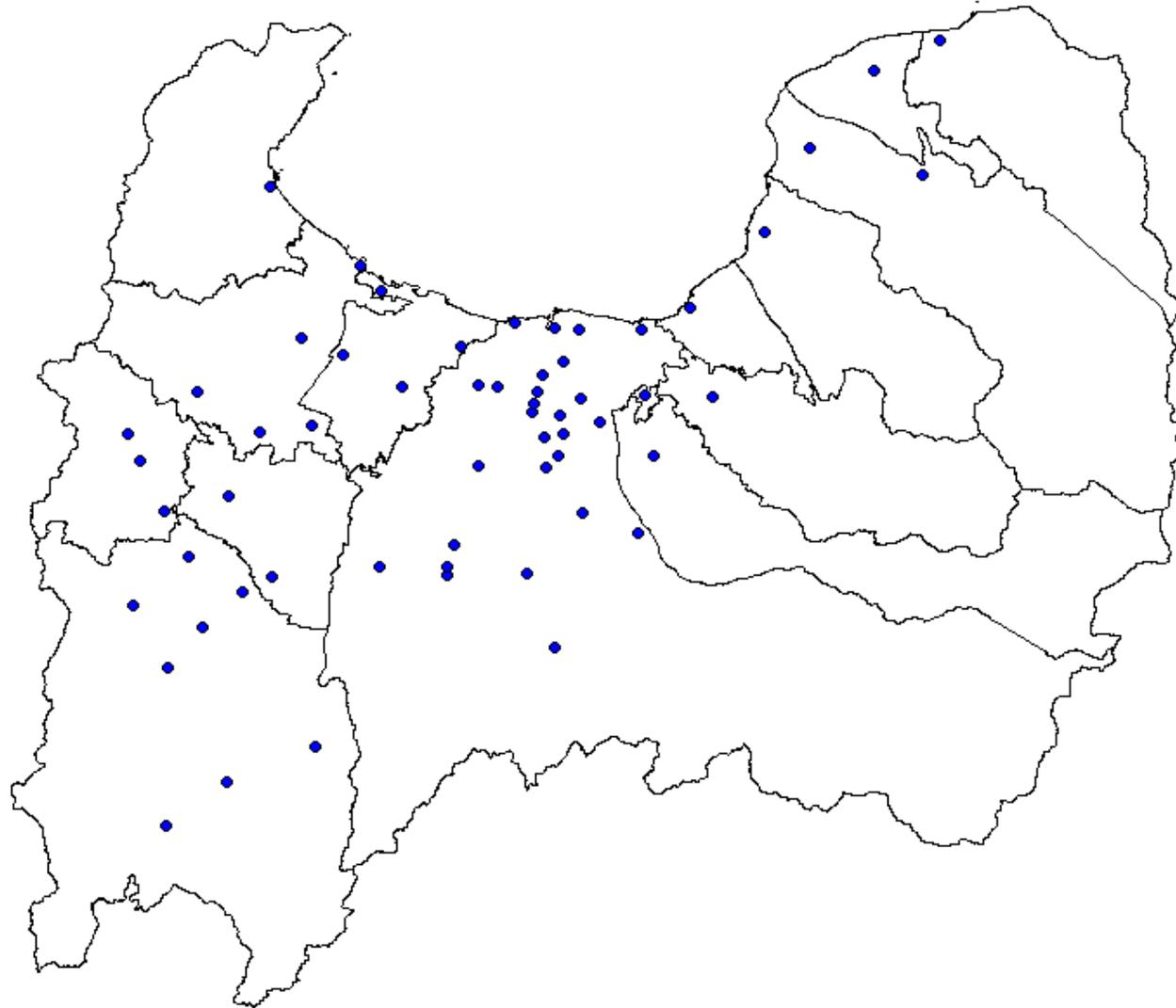
<output>

- 貸出数
- 登録者数
- 集会活動
(読み聞かせなど)



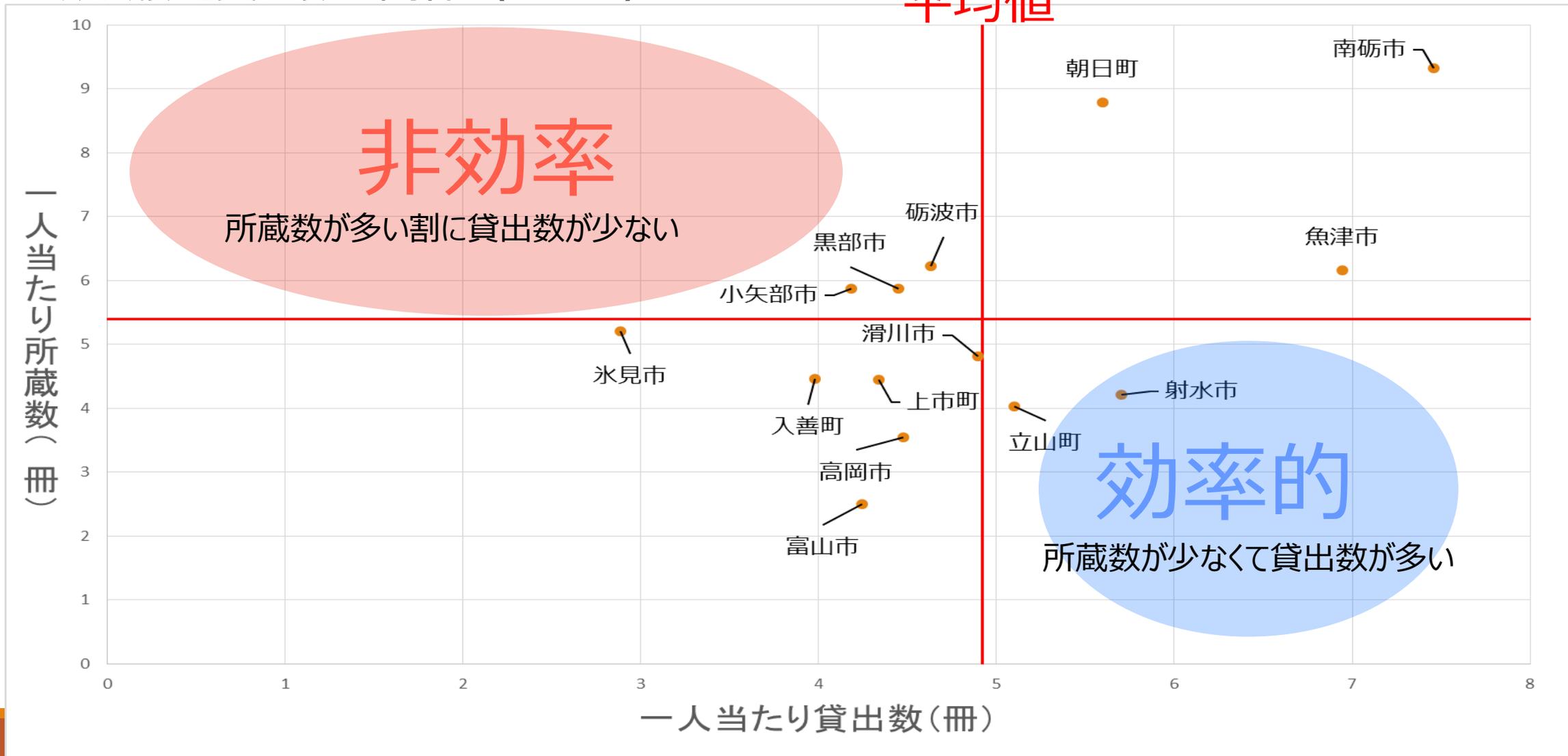
Input と Output
の関係から、富山
県内の市町村立
図書館の効率性
を分析

富山県の公共図書館の位置



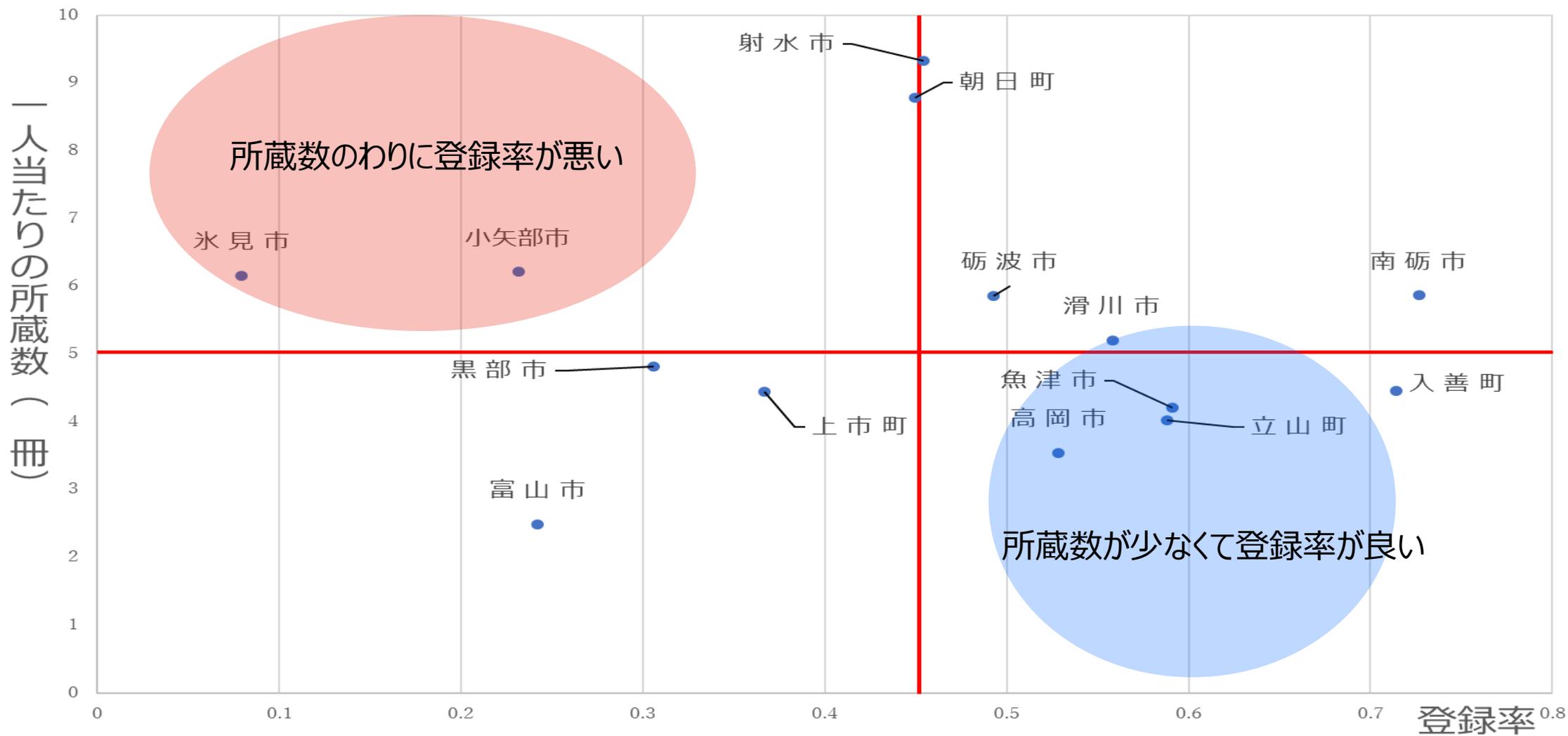
5 効率性の分析

<所蔵数と貸出数の関係 (H27)>



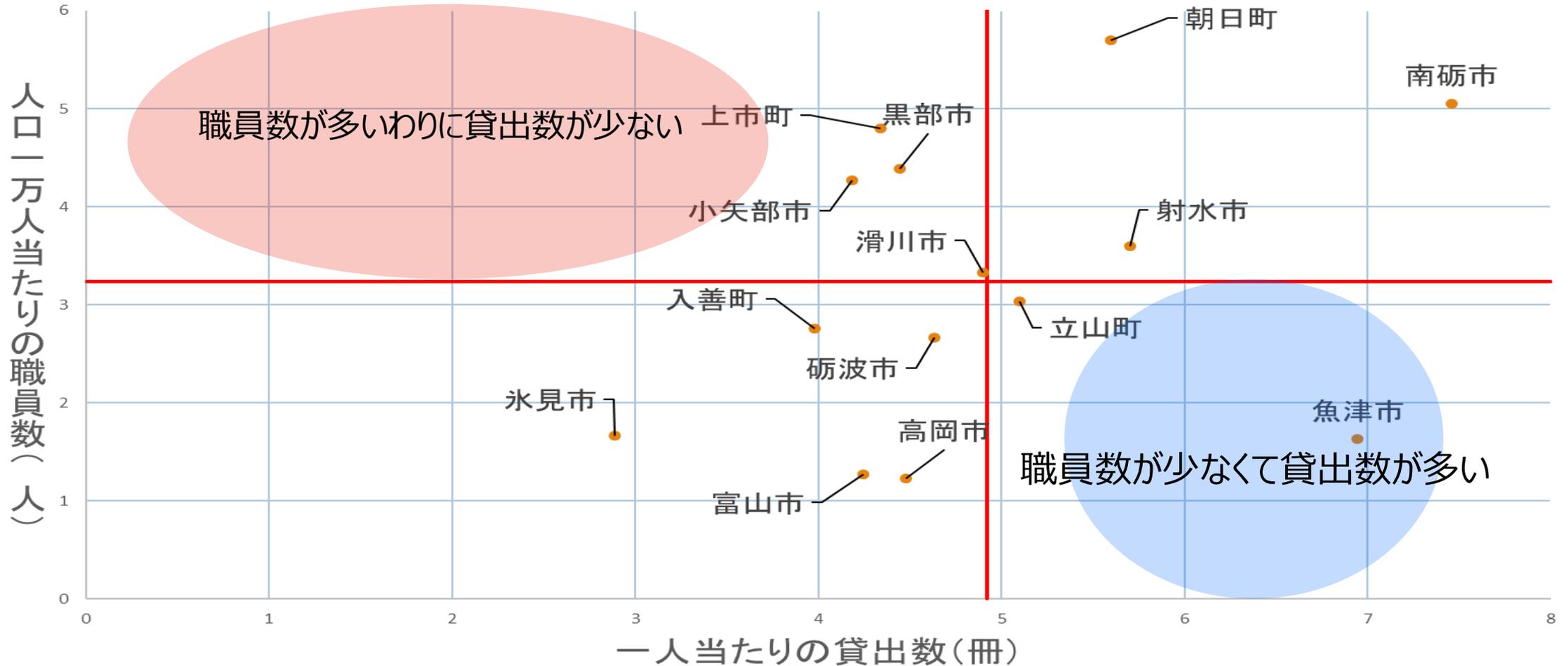
5 効率性の分析

＜所蔵数と登録率の関係(H27)＞



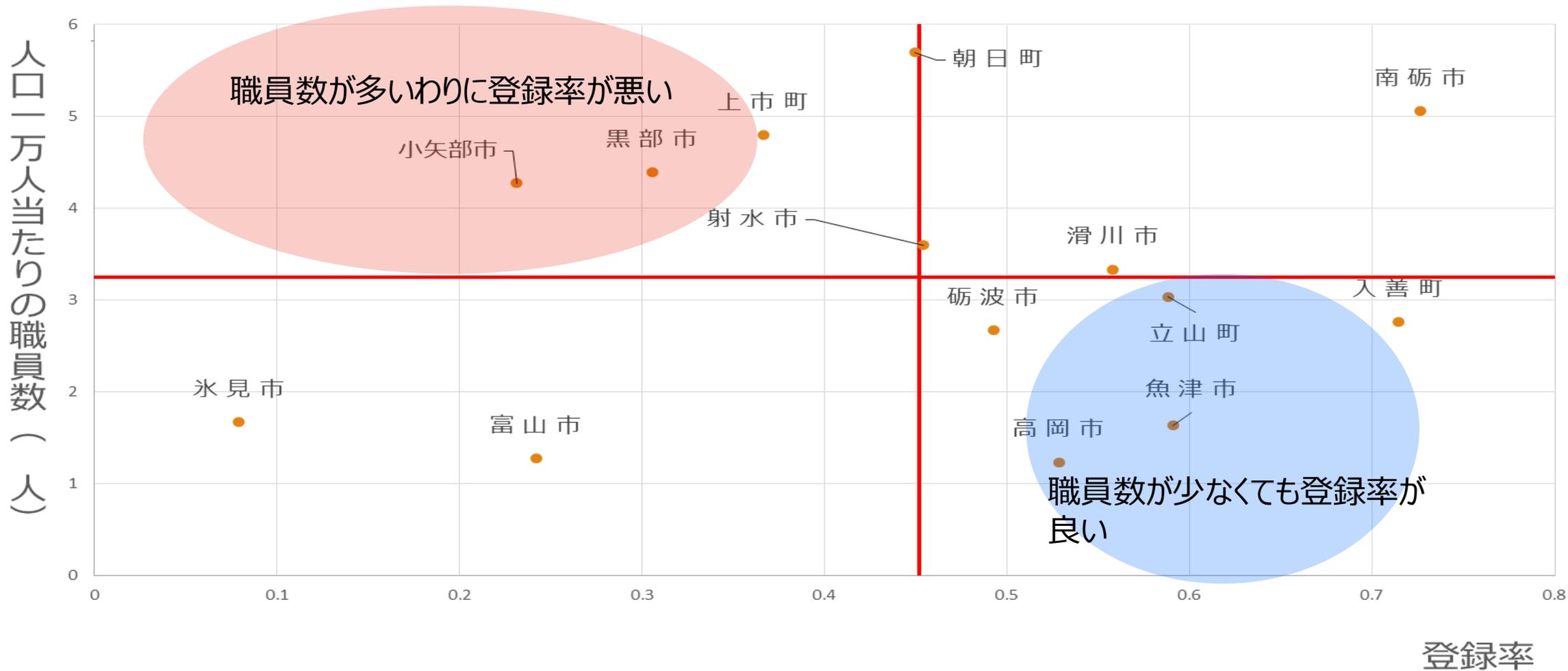
5 効率性の分析

＜職員数と貸出数の関係（H27）＞

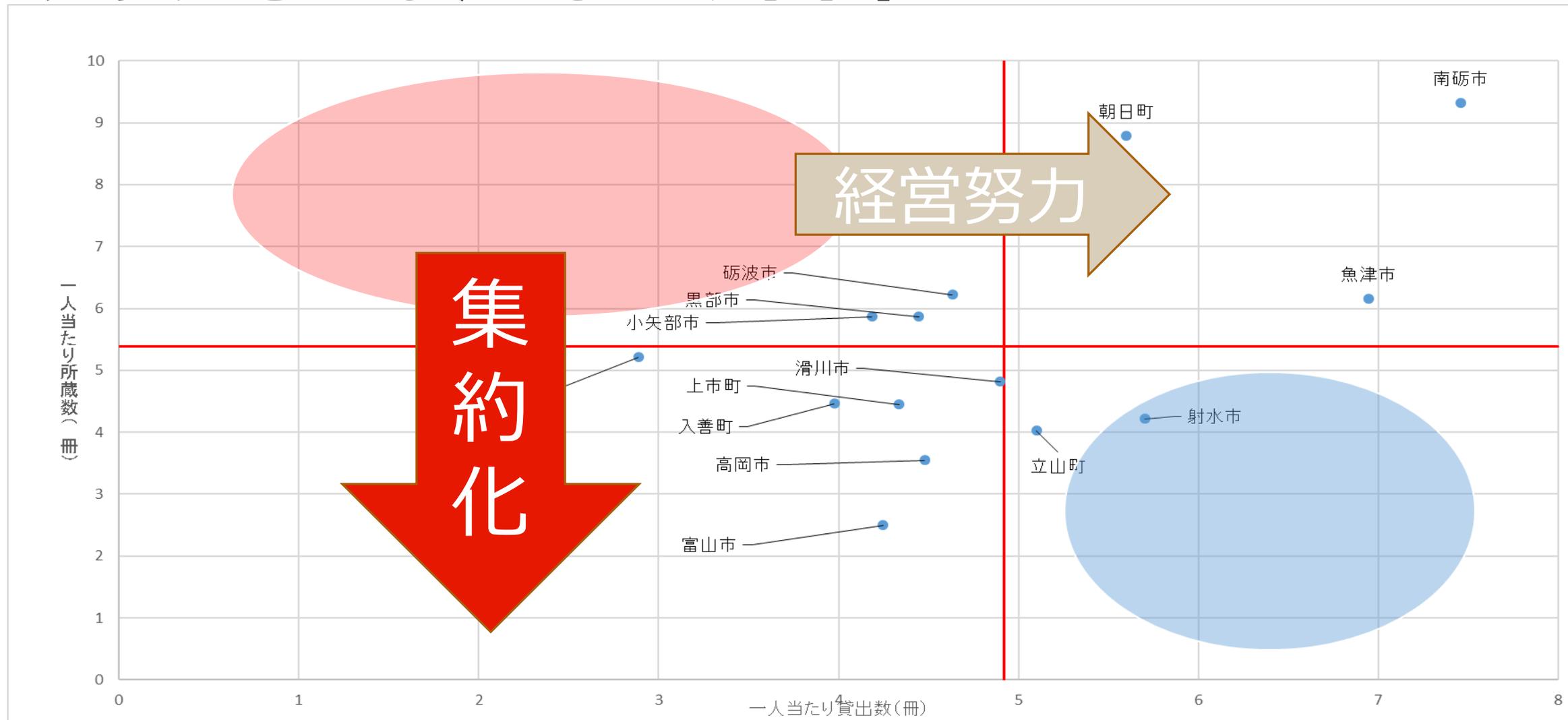


5 効率性の分析

<職員数と登録率の関係 (H27)>



グラフを踏まえての改善策



6 提言

集約化

(複数の施設を1つのものに集約して経費の削減を図る)



所蔵数や図書館費が多いにもかかわらず、貸出数や登録者数、集会活動にあまり効果が出てないものに適用すべき

公共図書館の規模の分析

図書館の規模がどのような要因に関連しているのか明らかにするため回帰分析による計算を行う

一人当たりの延床面積を規模の指標として被説明変数とする

各市町村の人口や財政状況などの統計を説明変数とする

平成27年の全国の1256市町村のデータを使用する

推計式

$$\ln\left(\frac{\text{延床面積}}{\text{人口}}\right) = \alpha_0 + \alpha_1 \ln \text{人口} + \alpha_2 (\ln \text{人口} \times \ln \text{面積}) + \alpha_3 \text{合併市町村数} + \alpha_4 \text{経常収支比率} + \alpha_5 \text{財政力指数}$$

公共図書館の規模の分析

計算結果

$$\ln\left(\frac{\text{延床面積}}{\text{人口}}\right) = 1.547^{***} - 0.433^{***} \times \ln\text{人口} + 0.006^{***} \times (\ln\text{人口} \times \ln\text{面積}) + 0.021^{**} \times \text{合併市町村数} - 0.008^{**} \times \text{経常収支比率} + 0.548^{***} \times \text{財政力指数}$$

*マークの数は
有意であることを
示す。

公共図書館の規模の分析

回帰分析から分かった図書館の規模の決定要因

1. 人口規模が大きい自治体ほど、人口当たりの図書館床面積は小さい
2. 自治体の面積が大きいと、人口当たりの図書館床面積は大きい
3. 多数の市町村が合併した市町村の人口当たり図書館床面積は大きい
4. 財政的に豊かな自治体ほど、人口当たりの図書館床面積は大きく、図書館は充実している。

事例 – 富山県小矢部市の例 –

○小矢部市の現状

昭和37年に砺中町と石動町の合併により誕生

・小矢部市民図書館

施設の老朽化、スペース不足➡石動駅舎に新しい図書館を建設（新図書館整備事業）

・3つの図書館を回ることでできる市営バスがあるが、乗車人数は少ない。

小矢部市の図書館の位置

小矢部市民図書館（総合会館3階）



おとぎの館図書館



津沢コミュニティプラザ



7 集約化の可能性（1）

●津沢コミュニティプラザの図書コーナーの閉館

理由：規模が小さく、閉館すれば本や職員数を減らすことができ経費を削減できるから。

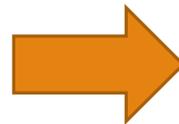
メリット：図書費、人件費の削減

デメリット：ここを利用していた周辺地域の人々にとって近くの図書館を失うことになる。

デメリットの改善策

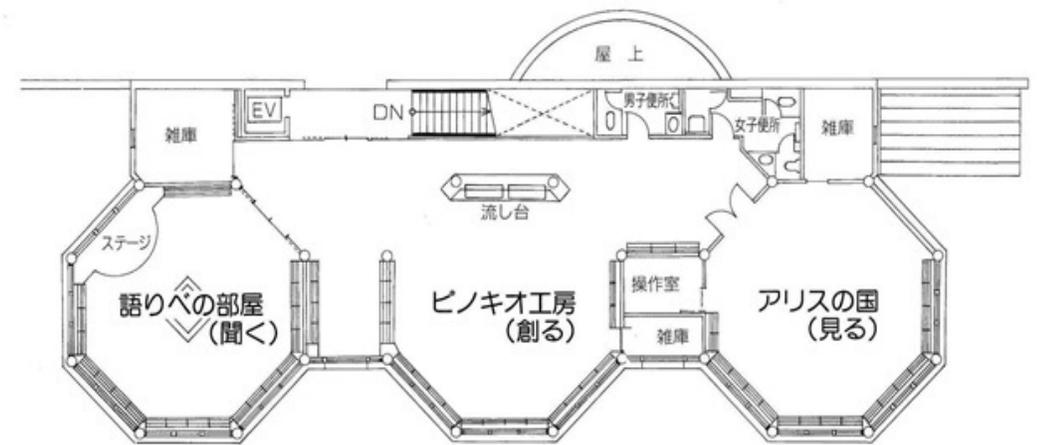
<市営バスを利用した本の貸し出しシステム>

- ・住民が借りたい本を他の図書館から運搬する
- ・津沢コミュニティプラザの受付で本の予約や受取、返却ができるようにする

 離れた図書館に行く必要がない

図書館を減らしても利便性を確保できる

7 集約化の可能性(2)



2F
小矢部市民図書館 各図書館の案内

●おとぎの館図書館の縮小

理由：2階のスペースが頻繁に使われていないから

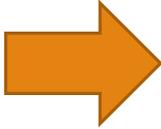
メリット：管理費の削減、有料で貸すことでお金が入る

デメリット：2階のスペースが空きスペースになる

デメリットの改善策

<外部の人の呼び込み>

- 2階の部屋を集会活動のために有料貸出
- 飲食店の誘致（カフェなど）

 空きスペースの有効活用
集会活動の多様化

8 まとめ

＜問題＞ 財政的な地方財政の圧迫
・公共図書館の維持管理



＜課題＞ 予算削減

＜提案＞ 集約化（富山県小矢部市の事例）
・津沢コミュニティプラザの閉館
・おとぎの館図書館の縮小

参考文献

- 文部科学省 『図書館法』
- 日本図書館協会『図書館について』 <http://www.jla.or.jp>
- 富山県『県内公共図書館統計』各年版 <http://www.lib.pref.toyama.jp>
- 国立社会保障・人口問題研究所『将来推計人口』 <http://www.ipss.go.jp>
- 総務省『市町村別決算状況調』 <http://www.soumu.go.jp>
- 小矢部市ホームページ 『新図書館整備事業』 <http://www.city.oyabe.toyama.jp>
- 総務省『公共施設状況調』 <http://www.soumu.go.jp>
- 総務省『国政調査 E-stat』 <https://www.e-stat.go.jp>
- 内藤伸浩(2015)『人口減少時代の公共施設改革～まちづくりの視点によるPRE／FM戦略～』

東京大学公共政策大学院

ご清聴ありがとうございました